

【GMレポート】

どこまで強くなれるか

GM兼監督
並河 研

今年の7月25日、ノートルダムジャパンボウルが開催され、あのジョー・モンタナを始めとして多くのNFLプレイヤーを輩出した米国の強豪ノートルダム大学のOB連合軍と日本代表チームが戦い、前半FGで先制したものの後半地力の差が出て、3-19で敗れました。これに先立つことアメリカで開催されたU-19世界選手権は、アメリカチームが他チームを圧倒して優勝、2位カナダ、3位日本という結果に終わりました。一方で、日本チームを率いた大阪産業大学付属高校の山崎監督は、優秀ヘッドコーチに選ばれています。この2つの出来事を通じて感じるのは、75年の歴史を積み重ねた結果、日本のコーチング技術、戦略・戦術、チームマネジメントは、着々と成長を遂げ、本場との差を埋めつつあるものの、フィジカルな面での「差」がどうしても埋められないという現実ではないか、と思います。アメリカのランニングバックに片腕で吹っ飛ばされる日本代表選手の姿に本場との遠い距離を感じた観客の皆さんも多かったかも知れません。

しかし、本当に距離は「遠い」のでしょうか？決してそうではないと思います。むしろ「遠さ」に気が引けて「近寄る努力」「近寄る気迫」が私たちにないのではないのでしょうか？奇しくも、3位に終わったU-19監督の山崎さんは、アメリカに勝つためには、ディフェンスラインをラインバッカーに仕立てなければ…と具体的なチーム強化について現地で練り始めていらっしゃると思います。私たちも小さな一歩ではありますが、アメリカから選手を招いて、チーム強化に取り組んでいます。今年は移籍もあって、その選手が3人になりました。どこまで強くなれるか、非常に楽しみでもあります。そして勝ち上がって行くとその場所には、闘将山崎監督が手塩にかけて育てられた選手たちが大勢いるパナソニック電工や立命館大学が待っています。今年は、1STステージ、そして2NDステージと、新しい方式のリーグ戦になりますが、地力を弛まず蓄え続けて頂点に立ちたいと思います。今年も私たちとともに戦ってくださいますようお願いいたします。



Monthly Report

8
2009

千葉で試合をするということ

2009年秋季リーグ戦の開幕試合を、オービックシーガルズは千葉マリスタジアムで迎えます。創部25周年の2008年春、「アメリカンフットボールプロチーム@千葉の創設に向けて」と題し、あらためて次のステップへと踏み出してまいりましたが、その第一歩となります。

実は、千葉を「地元」として意識し、ゆくゆくは「本拠地」「ホームタウン」として頻りに試合を行なえるようにしたいと漠然と考え始めたのは、さかのぼること、約6年前の2003年のことでした。スポーツ界では、ちょうどJリーグが設立10年を迎え、ホームタウンを中心とした、サッカー文化の醸成と自立経営の両立が、実現されていました。また、プロ野球においても、福岡ダイエーホークス（現福岡ソフトバンクホークス）の成功事例をもとに、地域密着への取り組みが急ピッチで進んでいました。自然と「アメリカンフットボールにおいても、地域密着の活動ができないものか。それこそが、真の意味での自立への道なのではないか」と考えるようになりました。

2005年からは、ジェフユナイテッド市原・千葉と習志野の練習グラウンドを共有させていただくという縁ができました。ジェフさんからは、地域社会と共存しながら競技を「普及」させる組織と体制、収益を安定させるためには一定以上の主催試合数が必要であること、等々、クラブチームとして必要な取り組みだけでなく、1960年代からサッカーがどのようにプロ化へ進んでいったか、といった

競技団体としての取り組みについても、深く、たくさんのご意見をいただきました。

それをもとに、チームとして、そして競技団体としての活動にと、競技普及振興に向けて、思いつく限りのことに取り組みました。その中でとくに力を入れたもののひとつが、2007年川崎で行なわれたワールドカップでした。気持ちのどこかでは、「アメリカンフットボールの潜在的なファンは結構いるはず。日本代表というトップの試合を日本でご覧に入れば、きっと多くのお客様が試合を観に来てくれるはず。」という思いがありました。しかしながら、現実はいささか甘くはなく、最大の見せ場となったアメリカとの決勝戦でも観客数は2万人に届きませんでした。そしてあらためて、アメリカンフットボールの「ファンづくり」を、チームとして本格的に行っていく決意を固めたのでした。

千葉マリスタジアムでの試合開催が決定した7月中旬以降、千葉において、「ご近所で試合をできることになりました。ぜひぜひお越しください！」と歩いて回りました。多くの温かい励ましのお言葉に、とても感謝しております。初めてアメリカンフットボールの試合をご覧になる方も数多く、千葉マリスタジアムにお越し下さることと存じます。そうした皆様のご期待に応えられますよう、チーム一同、最高のパフォーマンスをご覧に入れたいと思います。何卒、応援をよろしくお願いいたします。

(並河 研)



メインスポンサー

システムインテグレータの **オービック**

オフィシャルスポンサー



オービックシーガルズマンスリーレポート 8月号

発行人/並河 研
編集/渡部 滋之
制作・デザイン/高木 慶太
文/藤田 義生、渡部 滋之
発行/株式会社OFC
〒275-0024 千葉県習志野市茜浜3-6-3
tel: 047-452-2224
<http://www.seagulls.jp>